



部会だより

コロイドおよび界面化学部会

2018 年度部会各賞の紹介

はじめに

当部会では、コロイドおよび界面化学分野で顕著な業績を挙げた研究者・技術者を称えるために Lectureship Award (LA), 科学奨励賞および技術奨励賞の各賞を設けております。LA 賞は国際賞で世界的に活躍されている著名な研究者に授与されます。科学奨励賞と技術奨励賞は、当該分野で新しい科学・技術を作った、または作りつつある若手研究者・技術者に贈られる賞です。本年度も多くの優秀な候補者の推薦・応募をいただき、選考は難航しましたが、各賞の受賞者を紹介します。なお、例年、受賞者には秋季に開催される当部会の討論会において受賞講演をお願いしていますので、関心のある方は筑波大学・筑波キャンパス（本年9月18～20日）で開催される討論会にご参加下さい。

各受賞者の紹介

LA 賞には、Nicholas L. Abbott 教授 (University of Wisconsin-Madison, USA) と Patrice Simon 教授 (Universite Paul Sabatier, France) が選ばれました。

Abbott 教授は、コロイド・界面化学分野を牽引する著名な研究者で ACS Award in Colloid and Surface Chemistry などの賞を授与されるとともに、AAAS フェローや全米技術アカデミー会員に選出されています。顕著な業績としては、界面現象の観察・制御への液晶配向の利用や刺激応答性両親媒性化合物によるコロイド制御が挙げられます。

Simon 教授は、French National Research Organization の Silver medal や International

Society of Electrochemistry の Tajima Award などの賞を授与されるとともに、ALISTORE（欧州のリチウム電池開発の組織）の Director に選出されています。ご専門は電気化学で、電極ナノ空間・界面現象の解明で世界的に高い業績を残されています。

科学奨励賞には、信州大学学術研究院繊維学系の鈴木大介氏と東京農工大学大学院工学研究院応用化学部門の近藤 篤氏が選ばれました。



鈴木 大介 氏



近藤 篤 氏

鈴木氏の研究主題は「ソフト微粒子の次元構造とマイクロ空間場における機能制御」で、外部刺激に応答するハイドロゲル微粒子の新規合成法から、それらの配列・集積化技術の開拓に至るまで、ソフト微粒子分野の発展に大いに寄与されています。様々な形態のゲル微粒子や粒子内に階層構造を有する複合微粒子の合成などに成功し、ソフト微粒子の空間的な構造制御と動的な構造制御という新しい科学分野を開拓されました。

近藤氏の研究主題は「有機-無機ナノ細孔性材料の開発と吸着に関する研究」で、柔軟で構造変化する細孔性材料の吸着科学の発展に大いに寄与されています。IUPAC の 8 つの吸着等温線のどれにも属さない特殊なガス吸着特性を示す新規な層状 Metal-organic framework (MOF)

を創製され、従来の吸着とは異なる柔軟な結晶への吸着という新しい科学分野を開拓されました。

技術奨励賞には、花王株式会社スキンケア研究所の加賀谷真理子氏が選ばれました。受賞の主題は「弱酸性塩型界面活性



加賀谷 真理子 氏

剤を用いた皮膚へのマイルド性と高洗浄性の両立実現」で、高洗浄力でありながら皮膚にマイルドな製品の開発に成功された業績が高く評価されました。

おわりに

科学奨励賞に応募される若手研究者の研究分野は、本部会が学際的な研究集団であることを反映して、コロイド界面化学だけでなく、高分子、触媒化学、電気化学など多岐にわたっています。科学奨励賞への応募条件として討論会での発表実績も考慮されますので、当該分野に関連した新しい科学の構築に挑戦されている若手研究者の部会討論会への参加をお待ちしております。討論会のセッション構成をご覧いただくと、日本化学会会員の多くの皆様の専門と関連したテーマを見つけただけだと思います。

本年の討論会は筑波大学、来年は第 70 回記念国際会議（2019 年 11 月初旬）として沖縄で開催しますので、発表を検討いただけますと幸いです。

〔副部会長・賞選考委員長 河合武司
(東京理科大学工学部)〕

© 2018 The Chemical Society of Japan